

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区南砂2-3-4-101
施設名	江東区南砂第四保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

国旗

〈テーマの設定理由〉

運動会の際に万国旗を作成することがキッカケとなり、国旗に関心が高まる。

2 活動スケジュール

世界地図を用いて日本の位置や英語講師の母国の位置や国名を確認する
様々な国を知ったうえで、その国の特色を調べてみる
自分で国を作るとしたらどのようなデザインになるか
塗り絵をしたり、描いたりすることでより、国旗に関心を向ける

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

国旗カード・クレヨン・塗り絵・画用紙・絵の具・地球儀・国旗の絵本
つくろう遊ぼう、はじめてのハサミ（形を切って国旗を作る）

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

国旗の写真を見て、食べ物や有名なスポーツ、国がどこにあるのかななどを調べる
アメリカの国旗に色塗りをする

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

グループで行うが、個人の作業に夢中になっているため言葉数が少ない
友達の作品を見て刺激を受けて模倣する児もいる
枠の使い方に差があり、目一杯塗る児と、偏りがある児と、さまざまである
自分の国旗作りでは「なにいろにしようかな～」「こんなのどう～」と話しながら思い思いに描いて表現している



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

日本にいるといった普段気に止めないような話をする事で、国へ意識が向く。国や国旗に関心が向くキッカケとなる。国旗をみながら製作や色塗りを行うことで、別の色にしてみることへの工夫してオリジナルな作品に仕上げることもできていた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区南砂2-3-4-101
施設名	江東区南砂第四保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

国旗

〈テーマの設定理由〉

運動会の際に万国旗を作成することがキッカケとなり、国旗に関心が高まる

2 活動スケジュール

世界地図を用いて日本の位置や英語講師の母国の位置や国名を確認する
様々な国を知ったうえで、その国の特色を調べてみる
自分で国を作るとしたらどのようなデザインになるか
塗り絵をしたり、描いたりすることでより、国旗に関心を向ける

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

国旗カード・クレヨン・塗り絵・画用紙・絵の具・地球儀・国旗の絵本
ビー玉・箱・廃材

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

国旗の写真を見て、食べ物や有名なスポーツ、国がどこにあるのかなどを調べる
アメリカの国旗に色塗りをする
自分の好きなものを描き、オリジナルの国旗を作る
スタンプ使用で国旗作りをしてみる中で、この国には何があるか？考える

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

日本にいたことが当たり前となっていることで他の国との違いに目を向ける機会がなかったが、改めて違いがあることに気付くと、口々に違いを発表してくれていた。
どのような想いで国旗作りが出来たのかを友達同士で共有することで、面白さや楽しさを分かち合いながら国旗作りに取り組んでいた



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

子ども達が自由に好きな配色で色塗りできていたことで、出来上がりに満足感や達成感を感じていたことがわかった。
他児の作品に対して「すてきだね!」「それ、かわいいね」と声を掛け合う姿が見たれていた。
スタンプ製作は新鮮なこともあり集中して取り組んでいた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区南砂2-3-4-101
施設名	江東区南砂第四保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

国旗

〈テーマの設定理由〉

運動会の際に万国旗を作成することがキッカケとなり、国旗に関心が高まる

2 活動スケジュール

世界地図を用いて日本の位置や英語講師の母国の位置や国名を確認する
様々な国を知ったうえで、その国の特色を調べてみる
自分で国を作るとしたらどのようなデザインになるか
塗り絵をしたり、描いたりすることでより、国旗に関心を向ける

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

国旗カード・色鉛筆・塗り絵・画用紙・絵の具・地球儀・国旗の絵本・カルタ
ビー玉・箱・廃材・世界地図

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

国旗の写真を見て、食べ物や有名なスポーツ、国がどこにあるのかななどを調べる
アメリカの国旗に色塗りをする
自分の好きなものを描き、オリジナルの国旗を作る
地図や絵本を照らし合わせながら、日本と他国の違いを知る

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

旗を作り「USA!」と応援している
多国籍の児が日本との距離を教えてくれている
世界国旗をそれぞれ好きな国を選び、色を塗ったり描いたりしている
大きな紙に貼りつけることで、客観視できたことで他児との違いに気付くキッカケとなる
国の名前やデザインを覚え始めている



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

環境が整っていない中でスタートしたため、調べ事に限界を感じた。
世界地図に関心が高い児が多く、国の場所を探して色塗り遊びに繋げ、集中して行う姿が見られた。自分で描いた国に関心が高まり調べ始めていた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区南砂2-3-4-101
施設名	江東区南砂第四保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

音の高さが変わる仕組みを理解しよう

〈テーマの設定理由〉

【3歳児】

幼児期になり日頃から音楽に慣れ親しむ活動が多くあり、歌ったり演奏したりと練習では熱心に取り組む姿があります。当たり前のように音に触れる生活の中で、音について詳しく考える機会はなかった子ども達。このような機会に、音のしくみについてや音の高低差はどのような成り立ちなのか等、子ども達と探究していきたい。音に触れながらおんがくという幅広い分野を深掘りするにあたり、音を鳴らしてみたり歌ってみたり、その音を使ってどんな遊びが広がり創造性や発想力を掻き立てられるのかを子ども達と一緒に考えていきたい。

2 活動スケジュール

3歳児では1ヶ月に2、3回程のペースで5ヶ月に渡って探求活動を行っていく。
イラストカードを用いてマラカスやレインスティックの中に何が入っているかを知るところから始まり、音をならす素材や容器の中身を変えることで音がどのように変化するか、鳴らしたあとにどのような音がするのかをイメージし、子ども達同士で確認し合う。
楽器作りを行い、友だちが作ったものをみたり一緒に歌を歌ってみたりして自由に使う環境を設定する。廃材を使用して、探求の幅を広げていく。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

容器：紙コップ・スチール缶・透明なケース・ヤクルトカップ・コップ
中身：ビーズ（2種）・ペットボトルキャップ・水・どんぐり
シャリンバイ・スチール単ドラム

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- 2グループに分かれて体験する
- 用意した容器の中に、素材を入れた時に鳴る音の聴こえ方を確認する。
- 中身を変えて、音を鳴らした時の響き方に変化をもたせ、気付いたことを発表しあう
- 実際に手作り楽器を作ってみる

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

- 透明なケースなど、中身が見えるものであると量の変化が見れるためより関心が高まり、率先して取り組む姿がみられていた
- 子ども達がどんな音がするのか鳴らしてみる中で、さまざまな音がすること気付いたり、量を考えてみたりする姿がみえてくる
- 箱の大小によって音の鳴り方に変化が付くという事に気づき、響きを確かめながら比較してみる児もいた



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

容器の中に入れる物の数の違いによっての変化を知らせることができたので、戸外活動での音探しを楽しむ企画をしていきたい。
数を数えている児もいたので、数字への興味にも繋がっていたので幅が広がった。
楽器に関しては知らない児が多くいたが、保育者が見本となってみたり試作品を用意することで関心が高まり一緒に作ることができていた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区南砂2-3-4-101
施設名	江東区南砂第四保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

音の高さが変わる仕組みを理解しよう

〈テーマの設定理由〉

【4歳児】

幼児期になり日頃から音楽に慣れ親しむ活動が多くあり、歌ったり演奏したりと練習では熱心に取り組む姿があります。当たり前のように音に触れる生活の中で、音について詳しく考える機会はなかった子ども達。このような機会に、音のしくみについてや音の高低差はどのような成り立ちなのか等、子ども達と探究していきたい。音に触れながらおんがくという幅広い分野を深掘りするにあたり、音を鳴らしてみたり歌ってみたり、その音を使ってどんな遊びが広がり創造性や発想力を掻き立てられるのかを子ども達と一緒に考えていきたい。

2 活動スケジュール

4歳児では1ヶ月に2回程のペースで5ヶ月に渡って探求活動を行っていく。
イラストカードを用いてマラカスやレインスティックの中に何が入っているかを知るところから始まり、音をならす素材や容器の中身を変えることで音がどのように変化するか、鳴らしたあとにどのような音がするのかをイメージし、子ども達同士で確認し合う。
音を作った後にクイズ形式とし、素材の変化と音の変化に関心を高める時間を作る。
素材を使って簡単な曲を演奏できるような取り組みを行っていく。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

【材料①／ホール】

容器：紙コップ

中身：ビーズ（2種）・ペットボトルキャップ

【材料②／室内】

容器：スチール缶・おままごとボウル・皿・おたま・れんげ・グラス

中身：小さい玩具（レゴブロック・ビーズなど）・水

楽器：ハンドウッドブロック、アゴゴウッド、カスタネット

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- 2グループに分かれて体験する
- 用意した容器の中に、素材を入れた時に鳴る音の聴こえ方を確認する。
- 一人ずつ好きな素材を選んで音の鳴り方を確認した。
- 中身を変えて、音を鳴らした時の響き方に変化をもたせ、気付いたことを発表しあう

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

- 子ども達からの「やりたい！」の声に応じて活動の時間を設定する
- 「どんな容器にいれてみる～？」「音の鳴るものあるかな？」の問いに挙手をして発表「これなんかどう？」と子ども達自身で素材を選んで用意している
- 中身は子ども達が室内にある玩具の中から好きな物を選び、収集
- 子ども達が「軽いのだとどうかな」「入れすぎじゃない？」などと量を調整しながら音を鳴らして確認したり友だちと聴き比べを始めていた。「入れる物の形によって音が違うね～」と気付く児がいた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

クイズをして子ども達意欲が高まったことで発表への前向きな気持ちに繋がっていたことがわかる。子ども達の気付きを見逃さずに、汲み取りながら取り組むことができていた。最終的に音階を作り演奏に繋げることができていて、子ども達は満足そうであった。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区南砂2-3-4-101
施設名	江東区南砂第四保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

音の高さが変わる仕組みを理解しよう

〈テーマの設定理由〉

【5歳児】

幼児期になり日頃から音楽に慣れ親しむ活動が多くあり、歌ったり演奏したりと練習では熱心に取り組む姿があります。当たり前のように音に触れる生活の中で、音について詳しく考える機会はなかった子ども達。このような機会に、音のしくみについてや音の高低差はどのような成り立ちなのか等、子ども達と探究していきたい。音に触れながらおんがくという幅広い分野を深掘りするにあたり、音を鳴らしてみたり歌ってみたり、その音を使ってどんな遊びが広がり創造性や発想力を掻き立てられるのかを子ども達と一緒に考えていきたい。

2 活動スケジュール

5歳児では1ヶ月に4.5回のペースで5ヶ月に渡って探求活動を行っていく。
イラストカードを用いてマラカスやレインスティックの中に何が入っているかを知るところから始まり、音をならす素材や容器の中身を変えることで音がどのように変化するか、鳴らしたあとにどのような音がするのかをイメージし、子ども達同士で確認し合う。
音を作った後にクイズ形式とし、素材の変化と音の変化に関心を高める時間を作る。
素材を使って簡単な曲を演奏できるような取り組みを行っていく中で、子どもの発見したことを拾っていく。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

【材料①／ホール】

容器：紙コップ

中身：ビーズ（2種）・ペットボトルキャップ

【材料②／室内】

容器：スチール缶・おままごとボウル・皿・おたま・れんげ・グラス

中身：小さい玩具（レゴブロック・ビーズなど）・水

楽器：アゴゴウッド

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- 3グループに分かれて1グループずつ音を作り、その他2つのグループが同じ音を作る。
- 用意をした容器の中に素材を入れ、音の響き方や聴こえ方を聴き比べ、同じ音を作ろうと模索する。
- 音の鳴り響きに関心をもつことで子ども達自ら楽器を作り、音を奏でる。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

入れ物にパーツを入れながら、量の調整や音の鳴り方を確認する。
好き好きにパーツを入れていくのですが、パーツの大きさを気にしたり、音を鳴らして確認したり集中してグループごと取り組んでいました。
「どうかな～」 「なにいれる～」 「ちょっとならしてみようよ」
他児の発表の際には「しーっ。おとをきいて」「ちょっとちがうね」と音へ意識を向けるように声を掛け合う姿も見られていた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

保育者が教えていなくても、入れる物や量の違いで音の高さが変わるといったことに気付いていた。また前回の知識を元に入れる数と音の大きさや音色に違いがあることに気付いている。音階に自信のある児が中心となり、進めていく姿があるので、得意を伸ばせる問いかけをしていきたい。グラスを使用することで水加減がわかり高い音と低い音をだしやすかったので、入れ物の工夫の必要性を感じた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区南砂2-3-4-101
施設名	江東区南砂第四保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

「とぶ」ってなんだろう？

〈テーマの設定理由〉

【3歳児】

身体を動かすことが大好きな子ども達のため「とぶ」について考えたときに自身が「とぶ」ということだけでなく、どのような「とぶ」ものがあり「とぶ」ことについてのイメージの膨らみを体感し、子どもが思うイメージの幅が広がっていくのではないかと想像した。
日常的に関心のある乗り物と自身が動くことで成り立つ「とぶ」という動作を改めて考えたときに違いを感じ、その違いに気付けるのかどうか。実践して気付く事や感じる事への発見と好奇心の幅を広げていきたい。

2 活動スケジュール

2024.11～月に複数回の実施を計画している。

- 「とぶ」にはどんな種類があり、何が原動力となっているのかを考える。
- また、とぶ動物はなにがいるか、どんな形をしているか、とぶ姿勢を観察していく。
- みんなが知っている「とぶ」とは？跳ぶものに変身してみる。
- パターンを変えて、他にとぶものがあるか身体で表現してみる。
- 「とぶ」種類によって身体のどこの部分を使っているのかを考えてみる。
- 自身で距離感を感じられるように、床に置くマットの上を跳んで距離を感じてみる。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

【材料／ホール／室内】

とんだ距離がわかるように床に置く赤青マット
どのようなとぶ動物がいるのかを自由に調べられるように動物図鑑を用意
絵本を読んでいる中でとぶに繋がる物を見つけていく
サッカーゴール、みかさてんてんてまり、みかさふあふあ、
動物の図鑑、窓開け図鑑、比べる図鑑、鳥図鑑、バスケットゴール

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

「とぶ」を表現してみよう。といった投げかけに対して全員に身体で表現してもらい、その後代表の子どもに何に変身したのかを聞いて発表してもらおう。
次に「とぶもの」は何を原動力として跳んでいるのか考えてもらおう。思いつく物を口々に発表最後に実際に跳んでみるとどのくらい幅跳びができるのか体験してもらおう。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

「とぶものとは？」の声掛けに子どもなりに考えて表現する姿がある。
「身体を動かして自由に動いてみて～」の声掛けに照れながらも自由に身体を動かして表現している。
動物に連想する子が多く、動物になりきってジャンプする姿が多くみられている。
うさぎや蛙を連想する児が多い中で他にどんなものがあるか聞いてみると飛行機やロケットの乗り物が連想された様子だった。
実物に似たぬいぐるみを使用し、魚の部位や身体の動きをイメージしながら動きに関心を持ち、実際の飛び跳ねることについて深掘りすることができていた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

友達同士で話し合いを設ける機会が今までになかったこともあり、話し合いをすることで他児の意見やアイデアを聞くといった機械を伝えられた。
動画を使用し子ども達がイメージしやすい流れとなったことで、発案があった。
子ども達への投げかけに対して理解が付いていかない児が多かったので、保育者が手本になることと、いかに年齢向けに伝える内容や中身を考慮していく必要性を感じた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区南砂2-3-4-101
施設名	江東区南砂第四保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

「とぶ」ってなんだろう？

〈テーマの設定理由〉

子ども本来の自然な動きが伴うものである。
ホールや園庭を活動場所として使用できる

2 活動スケジュール

【4歳児】

身体を動かすことが大好きな子ども達のため「とぶ」について考えたときに自身が「とぶ」ということだけでなく、どのような「とぶ」ものがあり「とぶ」ことについてのイメージの膨らみを体感し、子どもが思うイメージの幅が広がっていくのではないかと想像した。
日常的に関心のある乗り物と自身が動くことで成り立つ「とぶ」という動作を改めて考えたときに違いを感じ、その違いに気付けるのかどうか。実践して気付く事や感じる事への発見と好奇心の幅を広げていきたい。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

三角コーン・タイヤ・マット・目印・折り紙・大縄・
巻き尺・ボール・玩具・図鑑・絵本
ホールと園庭を使用する
サッカーゴール、バスケットゴール、ライン60、

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- 子ども達に思いつく動物の擬態をしてもらう
- どのような動物を連想させたのかをみんなの前で発表してもらう
- 飛距離を跳び方に変化を付けて比較する
- 遠くまで跳ぶにはどうすれば良いのか？
- グループごとに大縄跳びを行い、跳ぶ回数や並び順などを工夫して跳ぶ
- 幅跳びでは自分の跳んだ距離を確認し合う
- 大縄をたくさんとぶにはどうしたらいいか？

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

実際に計測し、距離を確認しながら跳び方をアレンジしていく子ども達。
鳥について考えた時、羽根が羽ばたく様子を本で見たり紙で折ったりする。早く跳ばせるにはどうしたらいい？と声を掛け合う。
自身が跳ぶ際に、遠くに跳ぶには・を考えてみた。
「歩きながら途中から走ってみる？」「走ってから跳ぶ？」など意見を交わす。
大縄では、1人ずつ跳んでみるが、徐々に人数を増やしていき、跳ぶ時のコツを話し合った。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

新たな発見に繋がる事もあり、自ら工夫して跳んだあとには達成感のような自信に満ちた表情になる。他児の意見を聞きその意見に対して否定的な回答を出す児もいる中で、友だちの話を受けとめることの大切さに気付いた

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区南砂2-3-4-101
施設名	江東区南砂第四保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

「とぶ」ってなんだろう？

〈テーマの設定理由〉

【5歳児】

身体を動かすことが好きな子ども達。今まで考えることのなかった「とぶ」事について、「ジャンプ」が主流となっている中で、他になにがあるのだろうか？と疑問に思ったことがキッカケとなる。日常生活で自然に行っている「とぶ」「ジャンプ」とは何か奥が深く、何が原動力となっていて「とぶ」に繋がっているのか考えてみる。
普段の活動の中で、縄跳びの練習と、遊びの中での動きを見つめなおして見ることで、「とぶ」事への関心が高まり遊びが広がっていくように思う。

2 活動スケジュール

1か月に4.5回のペースで5ヶ月に渡って探求活動を行っていく。
子ども達のイメージを膨らませていくにあたり、身近な動物を連想させていき、動物の動きを真似て自らの身体の動きに着目していく。
その中で、実際に距離や数を含ませた跳び方をしてみる事で子ども達自身が身体の構造に興味や関心を高めていき、距離や力加減などを知る体験を積んでいけることとなる。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

三角コーン・タイヤ・マット・目印・紙とペン・トランポリン・大縄
ホールを使用して、広いところで伸び伸びと身体を動かせるような場所を用意する
絵本や図鑑などを用いて、「とぶ」ことに繋がる物を見つけていく
ボール、サッカーゴール

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- 子ども達に思いつく動物の擬態をしてもらう
- どのような動物を連想させたのかをみんなの前で発表してもらう
- 飛距離を跳び方に変化を付けて比較する
- 遠くまで跳ぶにはどうすれば良いのか？
- グループごとに大縄跳びを行い、跳ぶ回数や並び順などを工夫して跳ぶ
- 幅跳びでは自分の跳んだ距離を確認し合う

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

「とぶ」物はなにがある？と投げかける事でイメージが湧く子ども達でしたが、口々に思いつく動物の名前を口にして身体で表現していた。どんな跳び方があって、どのくらいの回数や高さを跳ぶのかグループごとに話し合う。また、遠くに跳ぶにはどうしたら一番跳べるのかを話し合い、意見をまとめていく。「せーの！」の掛け声が必要なんじゃない？「手拍子でリズムをとりながらだとう？」などと試してみる。「タイミングを合わせるのが大事！」ということに気付いた子がどうやって合わせるかを考えながら進めていく。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

跳ぶことについて体験活動はしていたがある物と比較をするといった経験がなかったので、とぶことについて深掘りしていくことで専門性のある内容だということがわかる。子ども自身がイメージをもち、跳び方や跳んでいる物への関心が高まった様子。